



『支援』を学ぼう (前編)

令和2年2月、倉敷市立短期大学 保育学科准教授 平岡敦子先生を迎えて、令和元年度くらしき市民講座『支援』を学ぼう」が開催されました。「支援」という言葉は、いろいろな場面で聞きますが、「支援」とは何か。支援する人、支援される人、それぞれの立場から考えてみたいと思います。講義の要旨を2回に分けてお届けします。

支援についても一度学ぼう

生活をしていると、何かと「支援」というものに接することがあります。皆さんも、支援をされる側や支援をする側、いろいろな場面や立場で人と関わるものがあつたのではないかと思います。今日は、「支援を学ぼう」ということで、みなさんの日常生活の中での経験を通して、この「支援」という言葉を、一緒に考えてみたいと思います。「あつ、それってこういうことだ。」「あつ、自分もこうしていた。あの場面は、そういうことか。」というよ

8月



④ 「あなたは、支援をしたいですか？」

⑤ 「あなたはどんな時に支援をしたいですか？」

⑥ 「あなたはどんな時に支援をしたくないですか？」

この質問を通して、支援をするかどうかというところで、支援をされることはどういうこととのかについて、もう一度、自分の考えを確認してほしいのです。

支援をすることは

私たちは、「支援」という言葉を、よく耳にすることがあります。

支援の「援」という字は、五本の指をもつ手で、上から下から、手を差し伸べて支えたり、そちらの方向に行くことを助けたりするということを描いている文字だそうです。

この「援」という文字を使つた言葉に「支援」と「援助」があります。「援助」と「支援」とは、どこが違うのでしょうか。

「援助」は、できないことを代わりにすること。直接的に補ったり代わりにしたりすることです。

「支援」は、その人ができるように支えることです。間接的なやり方や行動で助けることです。

学生時代、先生から「これは、あなた、援助なの？支援なの？」「やっていることは、どちらなの？どういうこと？」なんていう指導をびしびしと言われて、「うーん。それって。うーん。」と考えたこともありました。先生のおかげで、「今、私がやることは援助なのか？支援なのか？何なのか？」と考える癖がつきました。現在は、「今、私がやるうとしていることは、その人に対して直接的な行動なのか、間接的な行動なのか。それで、この人がどう変わるのか。」ということに常に考えながら、接するようにしています。

「支援」は、英語では、直接助けるという意味の「AID」、手助けの「HELP」、補助の「ASSIST」などの言葉が使われます。





「セレーニオン ~月光~」
アクリルガッシュ

倉敷市立船穂中学校
3年 佐々木 香音 (令和元年度)

羽の中央部は、月の光に照らされて波打つ海を、先端付近は月の光が差し込むステンドグラスをイメージして描きました。

「支援」とは、なんらかの意図をもった他者への働きかけであり、相互の意図を理解しつつ、行為の質を維持・改善する一連の行動（アクション）のことをいいます。そして、最終的に相互に事柄をなす力をつけることです。「支援」は、他者への働きかけが前提となっていて、支援者と被支援者というセットで意味をなす行為です。

大切なことは、お互いがその意図を理解していることです。お互いがその意図を理解しない中で行うことは、やはり「支援」と言っただけとはいけないのです。支援される側にとつては、支援する側の意図が見えない中で、その人に接することは、とても不安に感じます。そして、殻に閉じこもります。また、支援する側も、相手の意図を理解しないまま、また、自分の意図を理解してもらわないまま支援をしうとすると、相手を不安に陥れることがあります。

相手は、その人の意図が分からないので、「何をされるのか。何が起きているのか。」と不安に思い混乱することでしょう。その人がどういう人なのか分からないまま支援を始めてしまうことは、大変危険なことです。しかし、意図を互いに理解して、相手に対する働きかけをすると、支援が相手の望む形に変化していきます。相手の意図をくみ取って、その変化に合わせてから支援をします。相手が変化するまでは、毎回同じことを繰り返すかも

しれません。変化しないこともあるかもしれません。また、戻ったりするかもしれません。しかし、こうした働きかけを続けていくと、支援する側が、相手の望む姿に変容していきます。そして、相手も変容していきます。お互いの意図が分かり、それに合わせてようになります。そういう相互的な関係を築いていくことやそのための行動（アクション）が「支援」です。

支援の構成要素とは、①他者に働きかけること。②他者の意図を理解すること。③行為の質の維持・改善を図ること。④エンパワーメント（困難な状態から脱することができるときの自分の力をつけること）です。

また、①自分の意図を前面に出し過ぎないこと。②相手への押し付けにならないこと。③相手の自助努力を損なわないこと。これらが支援に求められる3要素です。

繰り返しますが、支援とは、他者への働きかけが前提です。そして、人と人との間に起こることです。支援者と被支援者、アクションを起こす人と受け取る人がいて、なすことの行為そのものをいいます。支援というのは、対象の相手が生きづらかったり、何か難しいことを一人で解決したりすることが困難な時に、生きてきますし、役にも立ちます。

しかし、支援する側には、相手の意図が分かっているにしても、自分のエゴ（自分はこうしたい）で相手を動かしていかうとしたり、結果を求めて相手の意図をおろそかにして支援したりしてしまうことがあります。

だれのための支援なのか、本当に支援する人のためになっているのかという視点がとても大事です。

(つづく)

